

災害関連問題に関するアンケート結果の報告

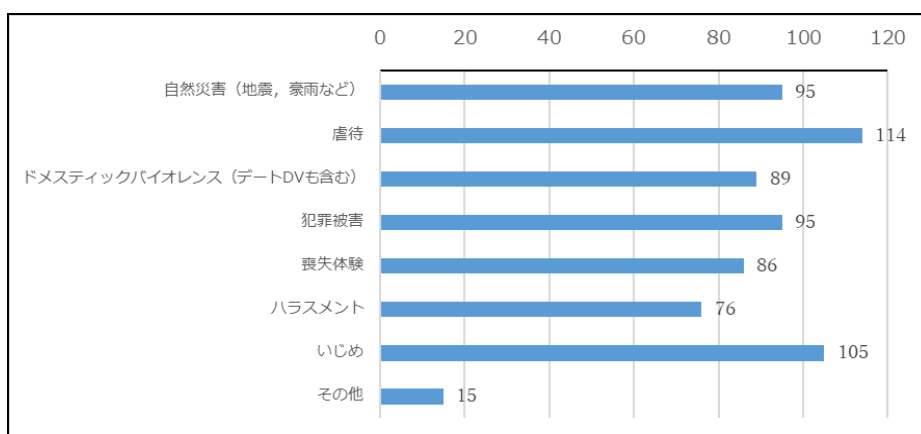
災害関連問題委員会では、災害関連問題に関してアンケート調査を実施しましたので、会員校の皆様にご報告申し上げます。ご協力ありがとうございました。

- ・実施期間：令和 7 年 7 月末～9 月末
- ・回答方法：Google Forms により回答（各校 1 回答）
- ・回答数：120 件（回収率：76.9%）

【集計結果】

1-1. 心的外傷後ストレス症（PTSD）等のきっかけに該当する以下の出来事について、授業で取り上げているものにチェックをしてください（複数回答可能）

設問	回答数 (N=119)	回答数に対して の割合
自然災害（地震、豪雨など）	95	79.2%
虐待	114	95.0%
ドメスティックバイオレンス（デートDVも含む）	89	74.2%
犯罪被害	95	79.2%
喪失体験	86	71.7%
ハラスメント	76	63.3%
いじめ	105	87.5%
その他※	15	12.5%

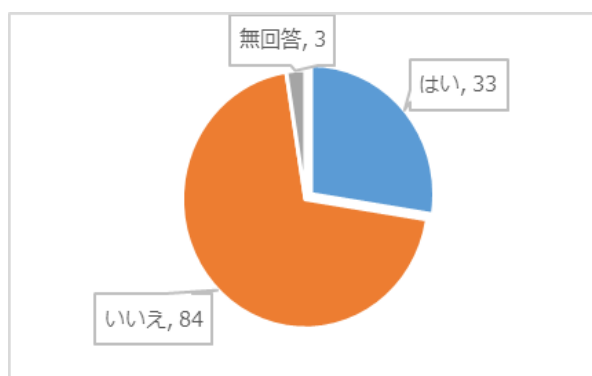


※その他の回答

友人の事故死・交通事故・身近な人の自死・人的災害（事故等）・親の離婚等・惨事ストレス・危機介入・ポストベンション（職場における自死等）・戦争・心的外傷体験・セクシュアルマイノリティ当事者の心的被害・学校での教職員の不祥事・教師の不祥事による PTSD・トラウマインフォームドケア

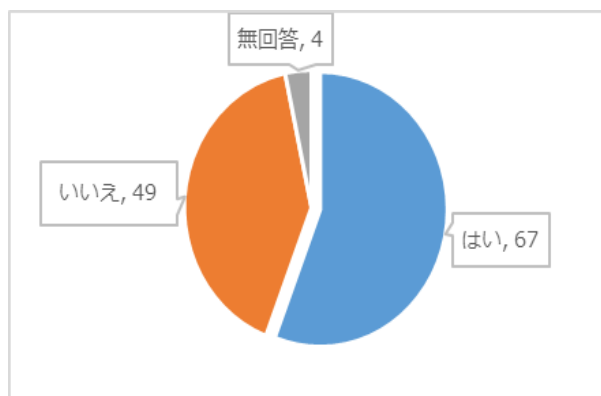
1-2. 1-1 でチェックした内容について、相談室のリーフレット等に記載していますか

設問	回答数	割合
はい	33	27.5%
いいえ	84	70.0%
無回答	3	2.5%
	120	100%



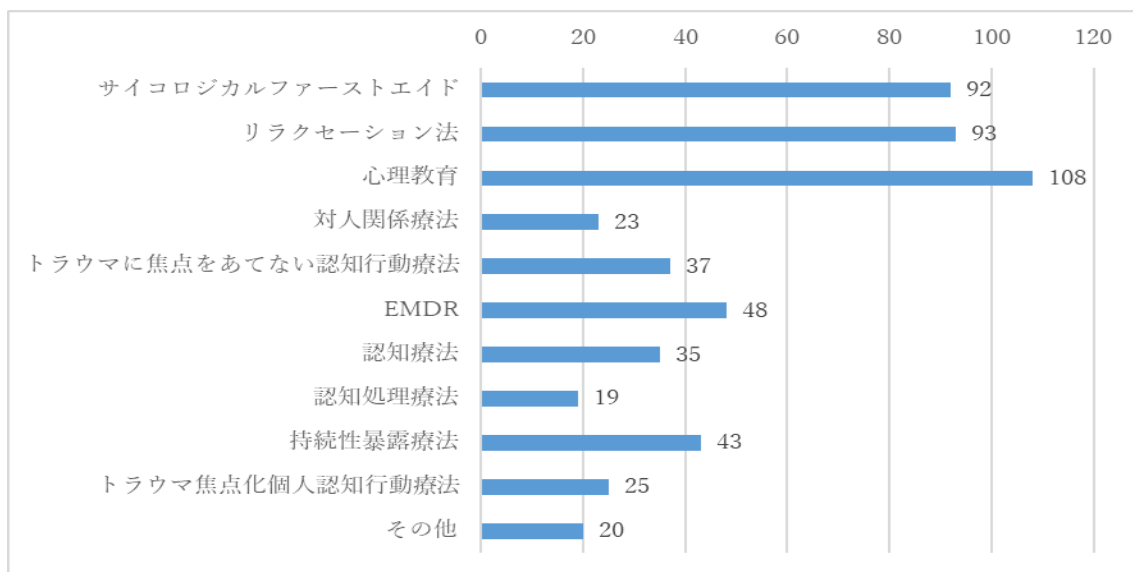
1-3. 1-1 でチェックした内容について、地域（市町村）等と連携して相談支援の経験がありますか

設問	回答数	割合
はい	67	55.8%
いいえ	49	40.8%
無回答	4	3.3%
	120	100.0%



2-1. PTSD への心理支援の技法について、授業で取り上げているものにチェックしてください（複数回答） :ISTSS 治療ガイドライン(2018) 成人に対しての心理的治療などを参考に作成

設問	回答数 (N=116)	回答数に対して の割合
サイコロジカルファーストエイド	92	79.3%
リラクセーション法	93	80.2%
心理教育	108	93.1%
対人関係療法	23	19.8%
トラウマに焦点をあてない認知行動療法	37	31.9%
EMDR	48	41.4%
認知療法	35	30.2%
認知処理療法	19	16.4%
持続性暴露療法	43	37.1%
トラウマ焦点化個人認知行動療法	25	21.6%
その他※	20	17.2%

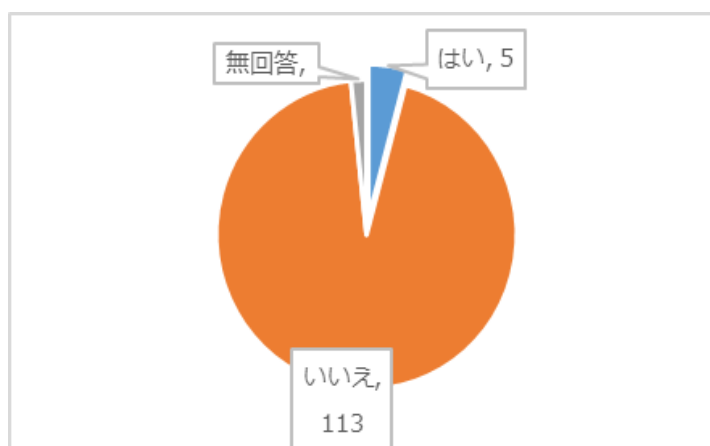


※その他回答

精神分析的心理療法・イメージ療法・臨床動作法・家族療法・短期療法・ナラティブセラピー・現在中心療法
動物介在療法・災害支援（被災者支援、援助者支援）のための臨床動作法・子どもの場合はプレイセラピー
人間学的心理療法・ポスト・トラウマティック・カウンセリング・イメージを用いた心理療法・プレイセラピー・TIC
（トラウマ・インフォームド・ケア）・PTPT（ポスト・トラウマティック・プレイセラピー）・TF-CBT（トラウマ・フォーカ
スド・認知行動療法）・トラウマリカバリーグループ・家族療・Somaticexperiencing（SE）・TFT・ホログラフィー
トーク

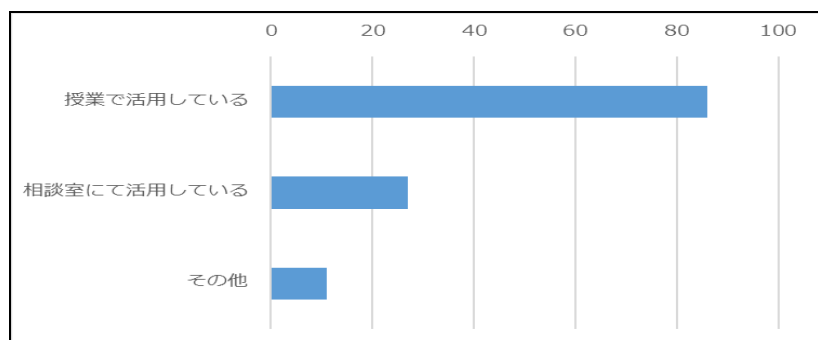
2-2. 2-1 でチェックした内容について、相談室のリーフレット等に記載していますか

設問	回答数	割合
はい	5	4.2%
いいえ	113	94.2%
無回答	2	1.7%
	120	100.0%



3-1. covid-19 後のオンライン活用について, 以下に該当するものをチェックしてください

設問	回答数 (N=107)	回答数に 対しての割合
授業で活用している	86	80.4%
相談室にて活用している	27	22.5%
その他※	11	9.2%

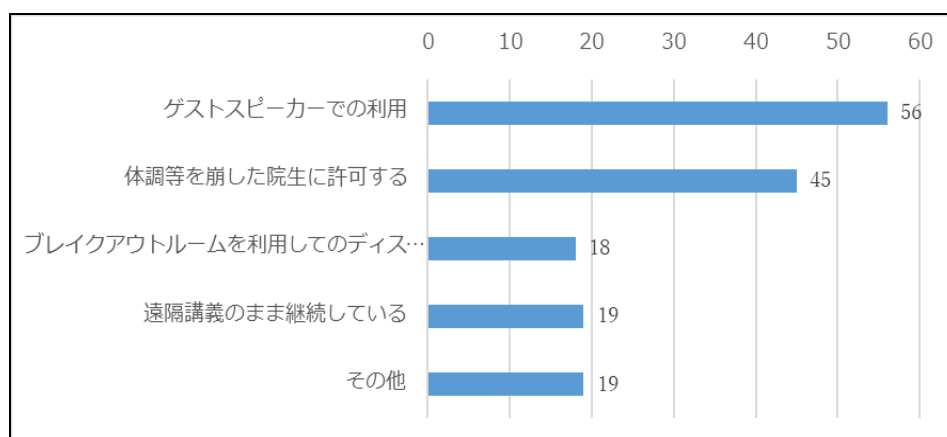


※その他の回答

2023 年度以降は、オンライン対応を解除しているが、特別の事情がある場合には講義、相談室共にオンライン対応をしている・そだち支援ネットワーク合同協議、実習連絡協議会にて利用・外部講師の台風時集中講義のみ・上記以外は活用していないとの回答多数

3-2. 授業でオンラインを活用している場合, 以下に該当するものに全てチェックしてください

設問	回答数 (N=99)	回答数に 対しての割合
ゲストスピーカーでの利用	56	56.6%
体調等を崩した院生に許可する	45	45.5%
ブレイクアウトルームを利用したディスカッション	18	18.2%
遠隔講義のまま継続している	19	19.2%
その他※	19	19.2%



※その他の回答

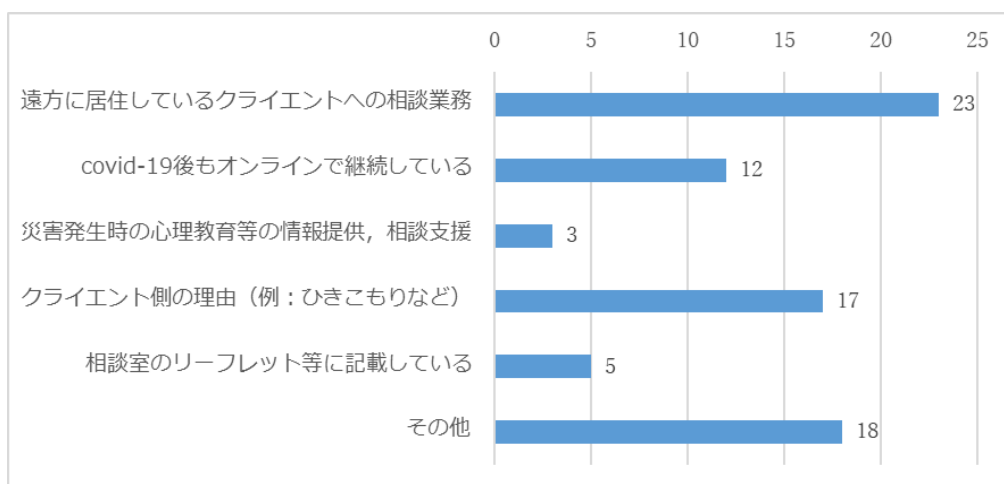
非常勤講師での利用・出校困難な遠隔地に居住する非常勤講師の授業・他キャンパスの教員によるオンライン講義・対面授業との併用・講義の一部をオンデマンドで代替することがある・同時双方向形式でのオンライン授業（一部の集中講義）・基本的にはすべて対面講義や演習だが、オンラインを併用することがある

大学院生の SV・修論指導や外部実習指導で対面できないとき（体調不良、授業期間外等）に利用・社会人の院生に対し勤務直後・職場の個室で受講の際

基本的には対面で実施。教授会と重なる日程のみインテークカンファレンスとスタッフミーティングを、守秘を徹底したうえで実施している。

3-3. 相談室でのオンラインを活用している場合、以下に該当するものに全てチェックしてください

設問	回答数 (N=46)	回答数に対して の割合
遠方に居住しているクライアントへの相談業務	23	50.0%
covid-19 後もオンラインで継続している	12	26.1%
災害発生時の心理教育等の情報提供, 相談支援	3	6.5%
クライアント側の理由 (例: ひきこもりなど)	17	37.0%
相談室のリーフレット等に記載している	5	10.9%
その他※	18	39.1%

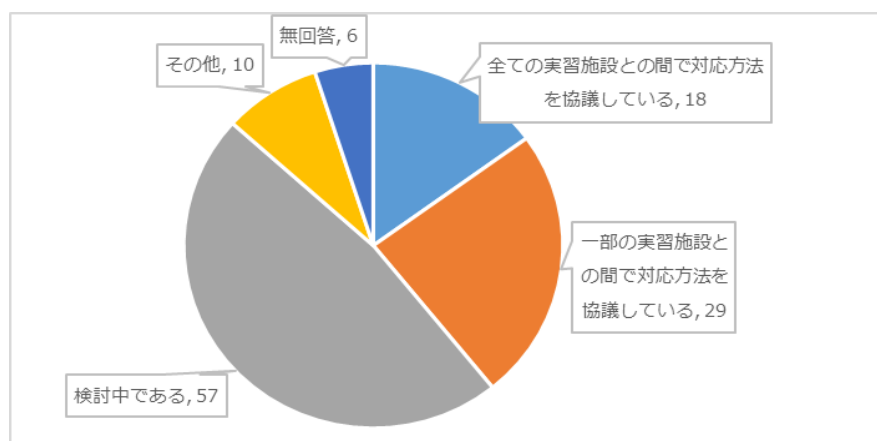


※その他の回答

オンラインを利用していない または、相談室を設置していない

4-1. 実習施設で実習中に災害が発生した場合の対応について実習施設と協議していますか

設問	回答数	割合
全ての実習施設との間で対応方法を協議している	18	15.0%
一部の実習施設との間で対応方法を協議している	29	24.2%
検討中である	57	47.5%
その他	10	8.3%
無回答	6	5.0%
	120	100.0%



4-2. 実習施設で実習中に災害が発生した場合の対応について大学院生に指導していますか

設問	回答数	割合
各実習施設ごとに、指導している	17	14.2%
全体のオリエンテーションで、指導している	40	33.3%
検討中である	57	47.5%
無回答	6	5.0%
	120	100.0%

